



▲子どもたちのグループに入り、一緒にたねダンゴを作りました



古今東西 ぐんぐん行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し 市民の皆さまの活動の様子などをお伝えします

第40回全国都市緑化仙台フェア実行委員会委員の中から4人の方に話を伺ったほか、「たねダンゴ花壇づくり」に子どもたちと参加しました。

近づくフェアに高まる期待

4月26日から始まる第40回全国都市緑化仙台フェアに向け、多くの方に参加いただき準備が進められています。仙台フェア植物調達協議会会長として、植物の調達・植え付け等を行っている石出慎一郎さんは「花き団体と造園団体が組んでフェアに取り組むのは全国でも珍しいこと。この仙台スタイルを成功させたい」と意気込みを話します。植物を容器に植え、つるしたり壁に掛けたりするハンギングバスケットの装飾を担当する、日本ハンギングバスケット協会宮城支部支部長の菅原範子さんは「地下鉄国際セン

ター駅から会場までの道を花で飾ります。花装飾の楽しみを伝えたい」と話してくれました。会場へ導く色鮮やかな花道もフェアの見どころの一つです。「子どもたちに、生き物の成長を五感で感じ、命を大切に育て育んでいきたい」と話すのは仙台市私立幼稚園連合会会長を務める菊池正隆さん。子どもたちが参加する企画にご意見をいただいています。また、今回は東日本大震災後、東北では初めてのフェアの開催。震災以降、花と緑による復興支援を続けてきた、花と緑の力で3・11プロジェクトみやぎ委員会委員長の鎌田秀夫さんは「すてきなガーデンを作って、震災以来、活動を支えてくれた全国の皆さんに見ていただきたい」と話します。フェアでは支援への感謝とともに、緑の再生の歩みも発信していきます。

未来につなげる杜づくり

皆さんは、杜の都の未来も見据え、活動をされています。菅原さんは「花装飾やワークショップなどを通して植物を愛でる方が増え、未来につながる一助になれば」と期待を込めます。菊池さんも「幼稚園等に設けた花壇だけでなく、普段歩いているところにも緑や花があふれて、家族で会話しながら植物の成長を見守ることができたら」と続けます。普段の生活から緑に親しみ、慈しむ心を育てることも大事ですね。「仙台の街路樹は日本一だと思っています。さらに充実できたら素晴らしいです。」と石出さん。鎌田さんは「緑と花が共存している姿、その魅力も伝えていきたい。次世代へ引き継いでいくためにも若い人への指導も頑張りたい」と笑顔を見せました。市民や事業者の皆さんが丁寧に守り育ててきた杜の都。この大切な財産を未来へ確実に継承する思いを新たにしました。

みんなで作り上げるフェアに

この日は保育所などに通う子どもたちと、たねダンゴ花壇づくりも行いました。たねダンゴとは、種や肥料を入れた土のダンゴのことで、子どもたちはダンゴを見せ合いながら楽しそうな様子。最後にみんなで花壇に植えました。春にどんな花を咲かせるのか、ぜひ会場に見に来てほしいと思います。市民協働を体現するイベントとして、多くの市民の皆さんの協力をいただきながらフェアの準備を進めています。携わっていただいた皆さんの期待や未来へつなぐ思いも込めて、訪れる方に存分に楽しんでいただけるフェアとなるよう力を尽くしてまいります。

団体紹介

第40回全国都市緑化仙台フェア実行委員会

造園・緑化、経済・観光、まちづくりなどの代表者等で構成



石出慎一郎さん



菊池正隆さん



菅原範子さん



鎌田秀夫さん



再生紙を使用しています 紙へリサイクルできますので、雑誌として分別してください